



歴史博物館 昔あそび

※ゴールデンウィーク期間の日程につきましては下の項目をご覧ください。

・毎月第1土曜日 歴史博物館 紙芝居劇場

昔懐かしい自転車紙芝居です！いろいろな紙芝居を見ることができます。1日2回。

場 所：歴史博物館 1階

時 間：①13:30～ ②14:30～（各回30分程度）

・毎月第2土曜日 紋切りあそび 折り紙の金魚つり

型紙に折り紙をあてて切り抜くと、素敵な模様ができあがります。できた模様はクリアファイルに貼りつけて持ち帰ることができます！折り紙の金魚つりあそびもやっています。金魚以外の魚も…？

紙芝居劇場以外の昔のあそび体験については下記の場所と時間で実施いたします。

場 所：歴史博物館 1階

時 間：13:00～15:00

ゴールデンウィーク 期間の昔のあそび

紋切りあそびの日

4/29日(土・祝) 4/30日(日)

5/ 3日(水) 5/ 4日(木)

5/ 5日(金) 5/ 7日(日)

場 所：歴史博物館 1階

時 間：13:00～15:00

紙芝居の日

5/6日(土)

場 所：歴史博物館 1階

時 間：①13:30～ ②14:30～
(各回30分程度)

※都合により予告なく内容が変更・中止になる場合がございます。予めご了承ください。

ご利用案内

【時間】 9:00～16:30

【駐車場】 一般車30台

【休館日】 月曜日(祝日の場合は翌日)

お体の不自由な方等

【入館】 無料、補助犬同伴可

の車両 各館1台あり

車いす各館1台あり

大型バスの利用不可

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、博物館および駐車場の利用時間が変更となる可能性があります。あらかじめご了承ください。



市川考古博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-26-1

☎ 047-373-2202

市川歴史博物館

〒272-0837

市川市堀之内2-27-1

☎ 047-373-6351

館蔵資料小展示 季節の展示春「よそおいとあそび」

歴史博物館が所蔵する館蔵資料を季節にちなんで展示する季節の展示春「よそおいとあそび」が開催されています。

今回の展示では、市内より寄贈された節供人形をはじめ、かつて日本髪を彩った櫛や簪、男女それぞれの晴れ着や今回のテーマに沿った浮世絵のほか、消しゴム人形やベーゴマなど、当時子どもたちが遊んでいた玩具を展示しています。

期 間：令和5年

2月23日(木・祝)～6月25日(日)

場 所：歴史博物館 1階常設展示室



【当館利用者の皆様へのお願い】

- ・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。
- ・入口に設置している消毒液での手指の消毒をお願いします。
- ・見学の際、展示ケース等の館内の物には触れないようにお願いします。

直刀出土古墳を探して

令和3年12月に千葉県内在住のAさんから、直刀^{ちよくとう}1点を考古博物館に寄付していただきました。鞘^{さや}がない刀身に鍔^{はばき}が固着した状態で残っています。全長は86cmで、八窓^{はっそう}の鍔^{つば}とともに一回り大きな台板に針金でくりつけられていました。詳しい研究者に写真をお送りして教えを請うとともに自身でも先行研究を調べました。そして、資料の性格や錆化の状態、市川市の古墳や出土資料と対比し、わざわざ贋作を作成した可能性は低く、6世紀後半の真作である可能性が高いと判断しました。

台板には「明治四十一年 大字 国分 ●●●●● 方宅地^{ひさごつか}内ノ瓢塚地均しの際発見」と書いてあります(個人名は伏せて仮にBさんとします)。素直に解釈すれば、大字国分のBさん所有地に前方後円墳が存在し、それをBさんが崩した際に出土したのでしょう。市内には3基の前方後円墳が現存する国府台古墳群がありますが、かつて大字国府台や大字真間であった地区に位置しています。この記録からそれらとは別物の小型前方後円墳の存在が推測できるうえ

に、大字国分は古墳や古墳時代の遺構が極めて少ない地区ですので、ちょっとした驚きです。

さらに、Bさんのご子孫が同じ土地を今もお持ちで、お目にかかることができれば古墳の位置を特定できるかもしれない。そんな淡い期待を抱いて、コロナ禍のさなかに人づてに情報を集め、古い住宅地図をしらみつぶしに探し、主なお寺さんに過去帳のお名前まで尋ねました。しかし調べても調べてもBさんにたどりつけずに、残念ながら調査は中断しています。

しかし、まだあきらめません。今年8月から開催する小企画展でこの直刀を伏せ字無しで公開しようと考えています。大字国分やBさんに縁のある方にはぜひご覧いただき、直刀や古墳の情報をお寄せくださいますようお願いいたします。

※連載「シリーズ 鬼高ー真間ー国分」を今回はお休みします。

(考古博物館学芸員 松本 太郎)



写真1上 直刀



写真1中 直刀墨書部分



写真1下 直刀(部分)

古写真絵はがきにみる市川市域⑧

-市川桃林ノ景-

この絵葉書は、場所は確定できませんが、タイトルにあるように市川町の桃林の風景が写された絵葉書であると言えます。桃の花・東屋・訪れた人々などに彩色が施されており、中でも特に目を引くのが、低い木立で桃色の花を咲かせていた桃林の様子です。

絵葉書が発行された年は不明ですが、宛名面に通信文の記載欄がないことなどから、明治33年(1900)から39年(1906)頃に発行されたことが考えられます。

この頃の市川町は、桃林が花見の名所になっており、現在のJR総武線の前身となる総武鉄道の広告にも市川の桃林が紹介されています。

また、昭和10年(1935)に発行された『市川市要覧』には、市域の名所旧跡の一つとして「市川の桃園」が紹介されており、京成線の市川真間駅から菅野方面に桃林が多く、特に菅野駅から北へ200m余り進むと、1,296㎡の広さを持つ有名な桃園があったことが記されています。

桃の栽培については、大正12年(1923)に発行された『千葉県東葛飾郡誌』によれば、江戸時代の安政4年(1857)に八幡の川上善兵衛という人物が、現在の埼玉県松伏地方から桃の種子を購入して栽培し、周辺に広めたとされています。

また、大正7年(1918)に発行された『千葉県物産販路要覧』によれば、東葛飾郡の主産地として、中山村、八幡町、市川町、大柏村、野田町が記されており、現市域の広範囲の地域で桃が栽培されていたことがわかります。

しかしながら、時代を経ると生産量が減り、この理由は定かではありませんが、原因としては、桃から梨への栽培の転換などが考えられます。

このように、明治期から昭和初期頃における春の風物詩の一つになっていたのが、桃林の風景であったといえます。

(歴史博物館学芸員 小野 英夫)



【写真1】市川桃林ノ景